

演題

「デジタル化と向き合う歯科技工への挑戦」

講師

末瀬一彦

抄録

2014年「CAD/CAM冠」が保険診療に導入されて以来、一気に歯科技工にもデジタル化の大きなうねりが押し寄せてきた。保険診療に適用されている「金パラ合金」の急激な高騰もあり、補綴装置はメタルフリーへシフトしている。新素材としてCAD/CAMテクノロジーでしか扱えないジルコニア、CAD/CAM冠用レジンプロック、PEEK材などが開発され、これまでのアナログ技工から大きな変革が迫られている。さらに3Dプリンターの導入によって、これまでの歯科技工の術式が大きく変化してきた。歯科技工所における構造設備基準の規則もデジタル技工の導入によって見直され、歯科技工所の在り方も見直されなければならない。日本のアナログ的な技能は世界に冠たる優秀さを誇ってきたが、これからはデジタル技術との共存によって、高品質高精度な補綴装置が安定的に供給できることから国内の歯科技工だけでなく、グローバルに成長していく期待がある。若い歯科技工士にとってはビッグチャンスである。

略歴

- 1976年 大阪歯科大学 卒業
- 1980年 大阪歯科大学大学院 修了
- 1990年 大阪歯科大学 講師（歯科補綴学第2講座）（～1997）
- 1997年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校 校長（～2016）
- 2008年 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長（兼務 ～2014）
- 2014年 大阪歯科大学歯科審美学室 教授（～2017）
広島大学歯学部 客員教授
- 2017年 大阪歯科大学・昭和大学 客員教授
東京医科歯科大学 非常勤講師
岡山歯科技工学院 非常勤講師
- 2019年 奈良歯科衛生士専門学校 理事長
- 2021年 （一社）奈良県歯科医師会 会長

（学会関係役職）（2022.6.30現在）

- （一社）日本デジタル歯科学会 理事長
- （一社）日本歯学系学会協議会 常任理事
- （一社）日本歯科医療管理学会 理事
- （一社）国際歯科学士会（ICD） 理事
- （一社）日本歯科技工学会 顧問
- （一社）日本歯科審美学会 顧問
- （公社）日本補綴歯科学会 名誉会員（2018.4～）
- （一社）日本歯科理工学会 名誉会員（2018.4～）

「緊急！歯科技工士にとって重要な法令改正が発令されました」
～ デジタル時代 歯科技工士必見！ 知らなければならない新常識～
近畿歯科技工士会・日本歯科技工学会近畿支部・日本歯科技工学会共催
厚生労働省後援

演者氏名：野崎 一徳

所 属：大阪大学歯学部附属病院・医療情報室・オーラルデータサイエンス共同研究部
門

役 職：室長・准教授

演 題：歯科技工におけるリモートワークの基本的な考え方

抄 録：

Industry4.0やSociety5.0といった社会の実現を目標に、インターネット、AI、IoT、そしてビッグデータの解析など、情報関連技術の研究開発が世界中で行われています。これら社会変革のなかで歯科技工に関わる「スマートファクトリー」といった考え方が出現しています。そこでは製造工程の「見える化」、熟練技術の継承、ロジスティクスの改善、そして未来予測の実現が目標とされています。歯科技工プロセス全体のデジタルライゼーションのみならず、サプライチェーンを視野に入れた「スマートデンタルラボ」の誕生が予想されます。これらの変化は、歯科医療に関わる全ての人々に益するものでなければなりません。ダイバーシティ&インクルージョンを推進する社会においては、働き方改革による新たな勤務形態として「リモートワーク」が勧められています。ただし「リモートワーク」にもデメリットもあり、業務管理方法の検討が必要と思われます。本講演では、「歯科技工士の業務のあり方等に関する検討会」において議論された内容を基に、歯科技工におけるリモートワークの基本的な考え方について平易に解説いたします。